

比布町は130年を迎えました



特集

ずーっと、ぴっぷ。130年

今までも、これからも、どこにいても。

まちの名前がなくなると

「ぴっぴ」。その昔、アイヌの人々が石の多い場所と呼んだその地は、「必富」、「秘布」、「比布」と文字を変え、その独特な音と歴史をつないできました。

まちの名前は、単に土地の名を示すものではなく、それぞれの人生を表すうえで欠かせないものです。

まちの名前に触れるとき、ある人は故郷として、ある人は人生の大きな節目の場所として、またある人は安住の地として、それぞれの思い出をよみがえらせます。

まちの名前は人の歴史であり、まちの名前があり続けることは、人の歴史をつなぐことです。

「ずーっと、ぴっぷ。」であることは、「ぴっぷ」に関わった全ての人をつなぐこと。

「ずーっと、ぴっぷ。」であり続けることは決して簡単なことではありませんが、今までも、そしてこれからも、「ずーっと、ぴっぷ。」であるために、一歩一歩、前に向かって歩いていきたいと思います。

昭和40年 (1965年) 学校統合により町立「中央小学校」が誕生 **4**

昭和37年 (1962年) 町民憲章を制定 **3**

昭和24年 (1949年) 「第1回比布村成人式」挙行

昭和20年 (1945年) 第二次世界大戦中、比布駅付近でグラマン機による銃爆撃を受ける

大正10年 (1921年) イチゴの栽培が始まる **2**

明治39年 (1906年) 鷹栖村から独立し比布村が誕生

明治28年 (1895年) ピップ原野に開拓の跡が下される **1**

びっぶのこれまでを
抜粋しながら振り返ります。



学校統合により誕生した「中央小学校」は昭和42年に新校舎が完成し、比布小学校・同校西分校・東園小学校・南小学校の統合を終えた。



役場庁舎の看板を「村」から「町」へ。



びっぶのイチゴ栽培は、太田山付近の数戸の農家が子どものおやつとして植えたことが始まりとされる。



滋賀県から谷定徳、香川県から合田鶴造・三野寅市、愛媛県から尾崎洞五郎を代表とする3団体が移住。原野に人煙が立ちのぼり始めた。

昭和59年 (1984年) 開基90周年記念タイムカプセルを埋設 **8**

昭和55年 (1980年) テレビCMで比布町の名が全国的な話題に **7**

昭和45年 (1970年) 第1回町民スキー大会開催

昭和44年 (1969年) 町花に「スイセン」を制定

昭和43年 (1968年) 新町章を制定 **6**

昭和42年 (1967年) 「北嶺国際スキー場」(現びっぶスキー場)が運営開始 **5**



郷土資料館前庭に埋没された。50年後の2034年に発掘予定。



ピップエレキバン(ピップ株式会社)のCMに「びっぶ」の駅名が登場したことから町の名が全国的に知れ渡り、連日、観光客が押し寄せた。



【町章の由来】

比布町の「比」を図案化したもので、二つの交わりは町民の融和と団結をあらわし、底辺のふくらみは豊かな町を示し、上に広がる4本の手は町の限りない発展を意味している。



昭和43年のポスター

平成26年 (2014年)	平成21年 (2009年)	平成15年 (2003年)	平成11年 (1999年)	平成10年 (1998年)	平成6年 (1994年)	平成5年 (1993年)
「びっぶたく」町試験運行開始／平成26年 12	中学生までの医療費無償化開始／平成21年 突峭山「びびの路」開通／平成23年 町と旭川市の森林組合が合併／平成26年 びっぶ120年記念式典挙行 12	町立蘭留小学校閉校 11	市町村合併問題に揺りく。町民説明会などを経て自立の道を選ぶ／平成13、16年 比布町図書館オープン 10	自校式の学校給食が開始／平成12年 びっぶクリニックが新築移転／平成12年	母村である滋賀県甲西町(現湖南市)と友好交流提携 良佳プラザ遊湯びっぶオープン 東京比布会・札幌比布会設立／平成6年 開基100年記念式典挙行	上川農業試験場が町内に移転／平成6年 市街地にヒグマが出没 9



式典には町民や町出身者ら約190人が出席した。記念事業として、町体育館で「NHKのど自慢」などが開催された。



閉校式には在校児童12人のほか地域住民、同窓生ら約270人が出席し、全員で涙ながらに校歌を歌った。



町民にとって待望の図書館がオープン。初日には343冊の図書が貸し出された。



ヒグマ1頭が住宅街に現れ、民家や料理店の窓ガラスを破り逃走、当麻町内で駆除された。テレビのニュースで全国的な話題となった。

令和6年 (2024年)	令和5年 (2023年)	令和4年 (2022年)	令和3年 (2021年)	令和2年 (2020年)	平成28年 (2016年)
びっぶ130年を迎える	「第1回びっぶ夏まつり」開催 16 交通事故死ゼロ2,000日達成(8月24日)／令和5年	「ゼロカーボンシティ」宣言／令和4年 町立「比布中央学校」誕生 15	統計史上最高気温36.9℃／令和3年 ※資料：旭川地方気象台 地酒「必富」発売／令和3年 記念事業を実施 14	冬イチゴの実証栽培開始／令和元年 北比布駅、南比布駅が廃駅となる 新型コロナウイルス接種開始／令和3年 びっぶいちご誕生100周年 記念事業を実施 14	株式会社VOREASと協力協定締結／平成30年 町立比布中学校が新築移転(中央小学校に隣接)／平成30年 ・比布駅新駅舎完成 ・びっぶスキー場センターハウス「スキップ」オープン 13



「納涼まつり」「産業まつり」「びっぶ七夕天国」と、形を変えながら町民に親しまれたイベントをリニューアル。



中央小学校と比布中学校を統合し、上川管内では2校目となる完全小中一貫・義務教育学校「比布中央学校」が開校。



記念事業実行委員会が組織され、小中学生対象のイチゴ定植体験、果汁15%いちごサイダー(非売品)の開発などが行われた。



スキー場50年目の節目に、エリア内に点在していた機能を集約したセンターハウスをオープンした。

おかえりなさい

比布町役場
ふるさと比布へ

びっふ130年記念事業「旭川・札幌・東京比布会合同ふるさと訪問」

旭川比布同郷会
合田 春夫 会長
比布中8期生

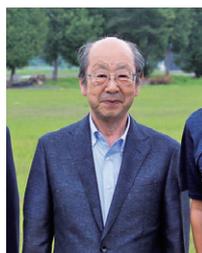
交歓会には遅れて参加しましたが、遊湯びっぷに宿泊し、皆さんと夕食を共にして、楽しいひとときを過ごしました。教員をしていたため学校関係の話題には興味があり、様変わりした学校について広報紙などを見るたびに、ふるさとへの思いをはせています。

8月1日、びっふ130年記念事業として、3つの同郷会員が町を訪問する「旭川・札幌・東京比布会合同ふるさと訪問」を行いました。修学旅行でお世話になった東京比布会員へお礼にと、比布中央学校9年生もお出迎えに参加。会員や町民ら計69人が参加し、にぎやかな交歓会が開かれました。

また、「町内見学バスツアー」として小学校跡地や比布中央学校の校舍内を巡ったり、比布神社例大祭の御旅所や神輿渡御を見学したりと、町や会員にとって特別な一日となりました。

札幌比布会
大谷 知彰 会長
比布中17期生

比布で御神輿を見るのはとても久しぶりでした。駅前通りを練り歩く担ぎ手たちの威勢の良い掛け声と、飾り鈴の音。間近で見て、どこか懐かしい気持ちにさせてくれました。どの同郷会も高齢化が進んでいますが、可能な限り、会があり続けて欲しいです。

東京比布会
牧野 正 会長
比布中16期生

3つの同郷会が集まる機会は初めてでしたので、案内をいただいた時から期待していました。4月に東京で会った9年生たちも出迎えてくれて、感激しました。「町内見学バスツアー」では母校の跡地に立ち、自然と懐かしい思い出がよみがえってきました。

ギネス世界記録® 誕生

同時に卵かけご飯を作った最多人数



びっぷ130年記念事業「ギネス世界記録に挑戦」

こんなに緊張して卵かけご飯を作ったのは初めてです…



ギネス世界記録公式認定員 関岡 智美さん

The most people making tamago kake gohan simultaneously was achieved by Pippu Town (Japan) in Kamikawa, Hokkaido, Japan on 4 August 2024
2024年8月4日、同時に卵かけご飯を作った最多人数が北海道上川郡比布町（日本）で達成されました。

実現してくれた比布町、集まってくれた皆さんに感謝します！

楽しい挑戦に参加させていただきました。比布の卵かけご飯、おいしいですね！

発案者の一人 前原 巨さん（旭高専1年生）

札幌市から参加した 山内さんファミリー



8月4日、町体育館でギネス世界記録®「同時に卵かけご飯を作った最多人数」の挑戦が行われ、327人中325人が成功し、見事ギネス世界記録に認定されました。

この挑戦は昨年11月、比布中央学校9年生が比布活性化プロジェクトとして「卵かけご飯で比布町の名を世界に広めよう」と町に提案したのがきっかけ。町発祥の「ゆめぴりか」、大熊養鶏場の「かっぱの健卵」、町特産品「びっぷ小ねぎ醤油」を使用するという、まさに比布町ならではの内容でした。

制限時間5分で250人以上成功することが条件の中、公式認定員によって記録認定が発表されると、会場からは大きな拍手や歓声が沸き起こりました。

ガァ ガァ



びっぶ130年記念事業「第2回びっぶ夏まつり」



おいコンビ「新宿カウボーイ」
かねぎよ 勝則さん



比布産米の無料配布



比布中央学校吹奏楽部・
びっぶウィンドオーケストラ合同ステージ



ジビエ工房・PIPIYUK「エソシカ肉ソーセージ」



町地域おこし協力隊ブース



大抽選会

8月4日、「第2回びっぶ夏まつり」が農村環境改善センターで開催されました。今回はびっぶ130年を記念し、前回よりも盛りだくさんの内容。子ども縁日や物販など多彩なブースが並び、多くの家族連れなどでにぎわいました。

さらには特別ゲストとして、演歌歌手で比布町応援大使の水森かおりさんも来場。大使委嘱のきっかけとなった「宗谷本線 比布駅」や代表曲「鳥取砂丘」など9曲を歌唱し、素敵な歌声に誘われ、会場は超満員となりました。

夜には迫力ある大輪の花火が打ち上がり、熱い一日を締めくくりました。



北海道文教大学食育アイドル「えにわっ娘」ステージ
(写真中央は比布町出身 瀬川あすかさん)



びっぶ夏まつり実行委員会・あそか苑・
くるみ保育園共催花火大会



比布町応援大使

水森かおりさん熱唱



津軽三味線「孝山会」ステージ